

主権者教育「出前講座」について「2019年11月1日（金）中日新聞 朝刊」にて紹介されました。

一票の重み 先輩が講義

名市大生 名古屋女子大高で

選挙啓発に取り組む名古屋市立大人文社会科学学部（瑞穂区）の学生による出前講座が三十一日、同区汐路町四の名古屋女子大高であった。二、三年生計約二百人が、講義や模擬投票を通して一票の重みを学んだ。

学生は、三浦哲司准教授（地方自治論）のゼミの三年生十二人。若年層の投票率の低さや一票にいくらの価値があるかなどを説明した後、候補者役の三人が順に登壇。それぞれ「平和で幸せな世の中をつくります」「高齢者の可能性を広げる社会」「未来を担う若者に力を」などと訴えた。生徒たちは、学生が運営する特設の投票所で一票を投じた。市の補助金でポスターなどを作製。投票や開票で使



模擬投票で、学生から投票用紙を受け取る高校生も＝瑞穂区汐路町4で

さん（◎）は、自身の経験を紹介した上で「なぜこの人に投票するのか、理由を言えるくらいに考えて」と呼び掛けた。

二年の城野夏実さん（◎）は「一票の価値を聞いて、投票に行かなきゃと思っ

が大切に扱われていることも分かった」と話した。

選挙の出前講座は二〇一七年から始め、同校では二回目。学生たちは今年七月の参院選で、大学内の期日前投票所の運営に当たった。（戸川祐馬）

※この記事及び写真は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。